

不審アクセス4.4万件 暗号化ソフトの欠陥標的

2014/4/16 1:40 | 日本経済新聞 電子版

世界中で広く使われている暗号化ソフト「オープンSSL」に深刻な欠陥が見つかった問題で、警察庁は15日、この欠陥を標的にしたとみられる不審なアクセスを4万4534件検知したと発表した。

9日に初めて検知し、15日午前10時までの数字をまとめた。実害は判明していない。

オープンSSLは、銀行やインターネットショッピングなどのサイトで使われることが多く、サーバーに保管されているパスワードやクレジットカード情報が盗まれる危険がある。

アクセスは断続的に検知され、12日午前3時台に5088件、15日午前9時台に4200件、14日午後0時台に4142件など、集中する時間帯もあった。

警察庁によると、サーバーの管理者が欠陥がないバージョンに修正すれば被害は防げるとい

う。
〔共同〕

NIKKEI Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。